

「咳、痰、息切れ、COPD」

運動したり、重いものを持ったりしたときに、咳や息切れを起こすことはありませんか？それは、もしかすると慢性閉塞性肺疾患（COPD）の徴候かもしれません。

主にタバコ煙による肺の炎症等により気管支が細くなること（気管支壁の肥厚）、正常な肺が破壊されること（肺気腫）が併存している状態がCOPDであると考えられています。喫煙者に多く、慢性的に咳や痰、息切れなどの症状があるとCOPDが疑われます。厚生労働省のデータによると、がんや心疾患、肺炎などととも死因の上位を占めます。また、治療では完全に肺が元に戻ることはないため、早期の発見が重要になります。

今回、このCOPDについて、呼吸器内科 講師 辻 隆夫 医師が解説をします。

■日 時：平成31年3月27日（水）

開場 17:00

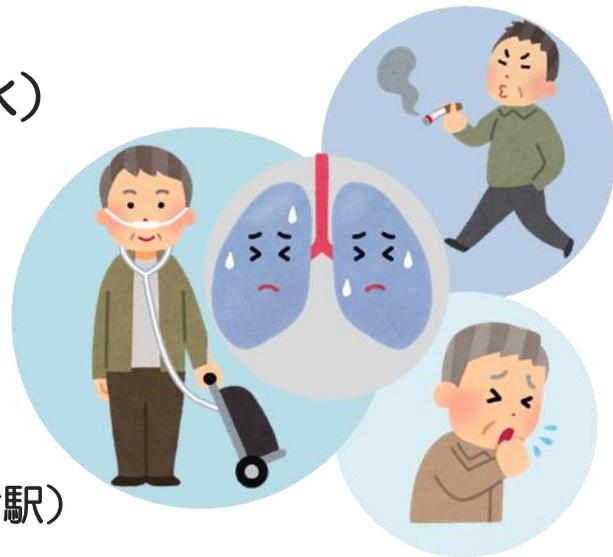
開演 17:30 ～

閉演 18:30（予定）

■会 場：東京医科大学病院

本館6階 臨床講堂

（最寄駅：丸ノ内線 西新宿駅）



■申し込み：事前の申し込みは不要。当日は会場に直接お越しください。

■お問合せ：東京医科大学病院 総務課 ☎ 03-3342-6111(代)

※尚、座席数に限りがございます（320席）。満席の場合は入場をお断りする場合がございますので予めご了承ください。

共催：東京医科大学

東京医科大学病院 生涯教育センター

東京医科大学病院 総合相談・支援センター

公益財団法人 東京医科大学がん研究事業団

東京医専